

経済・金融
フラッシュ消費者物価(全国 24 年 9 月)ーコア CPI
上昇率は 10 月に 2%程度まで鈍化した後、
再び加速へ

経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. コア CPI 上昇率は前月から 0.4 ポイント縮小の 2.4%

総務省が 10 月 18 日に公表した消費者物価指数によると、24 年 9 月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI）は前年比 2.4%（8 月：同 2.8%）となり、上昇率は前月から 0.4 ポイント縮小した。事前の市場予想（QUICK 集計：2.3%、当社予想も 2.3%）を上回る結果であった。

食料（生鮮食品を除く）の上昇率が 2 ヶ月連続で拡大したが、「酷暑乗り切り緊急支援」により、電気代、都市ガス代の上昇率が大きく低下したことが、コア CPI を押し下げた。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合（コアコア CPI）は前年比 2.1%（8 月：同 2.0%）、総合は前年比 2.5%（8 月：同 3.0%）であった。

消費者物価指数の推移

		全 国			
		総 合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料（酒類除く）及びエネルギーを除く総合
23 年	7 月	3.3	3.1	4.3	2.7
	8 月	3.2	3.1	4.3	2.7
	9 月	3.0	2.8	4.2	2.6
	10 月	3.3	2.9	4.0	2.7
	11 月	2.8	2.5	3.8	2.7
	12 月	2.6	2.3	3.7	2.8
24 年	1 月	2.2	2.0	3.5	2.6
	2 月	2.8	2.8	3.2	2.5
	3 月	2.7	2.6	2.9	2.2
	4 月	2.5	2.2	2.4	2.0
	5 月	2.8	2.5	2.1	1.7
	6 月	2.8	2.6	2.2	1.9
	7 月	2.8	2.7	1.9	1.6
	8 月	3.0	2.8	2.0	1.7
	9 月	2.5	2.4	2.1	1.7

（資料）総務省統計局「消費者物価指数」

コア CPI の内訳をみると、「酷暑乗り切り緊急支援」で電気代、都市ガス代の補助金が再開され、電気代（8 月：前年比 26.2%→9 月：同 15.2%）、ガス代（8 月：前年比 11.1%→9 月：同 7.7%）の上昇率が大きく低下したことに加え、ガソリン（8 月：前年比▲3.8%→9 月：同▲4.8%）、灯油（8 月：前年比▲0.7%→9 月：同▲4.6%）の下落率が拡大したことから、エネルギー価格の上昇率は 8 月の前年比 12.0%から同 6.0%へ大きく鈍化した。

食料（生鮮食品を除く）は前年比 3.1%（8 月：同 2.9%）と上昇率が前月から 0.2 ポイント拡大した。食料（生鮮食品を除く）は 23 年 8 月の前年比 9.2%をピークに鈍化傾向が続いていたが、24 年 7 月の前年比 2.6%を底に 2 ヶ月連続で上昇率が高まった。米類の上昇ペースがさらに加速（8 月：前年比 28.3%→9 月：同 44.7%）したことに加え、既往の円安に伴う輸入物価の上昇が消費者物価に波及している。

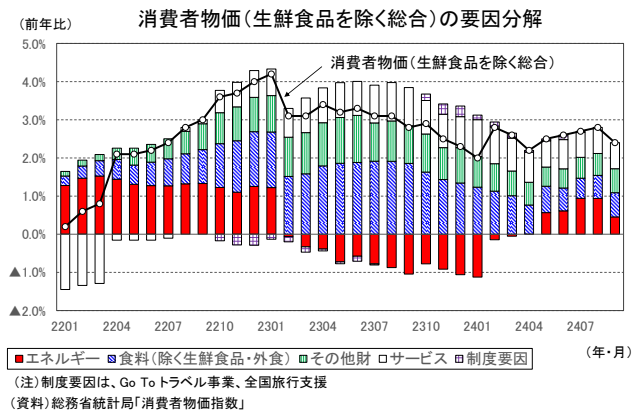
内訳をみると、米類のほかに、ケチャップ（同 12.0%）、果実ジュース（同 32.9%）などが前年比で二桁の高い伸びを続ける一方、前年の上昇率が高かった裏が出ることで、麺類（同▲1.3%）、卵（同▲11.4%）、食用油（同▲8.5%）、ビール（同▲4.9%）など、下落する品目も増えており、

食料の価格にはばらつきが見られる。

外食は前年比 2.7%（8 月：同 2.5%）と 3 ヶ月連続で上昇率が拡大した。

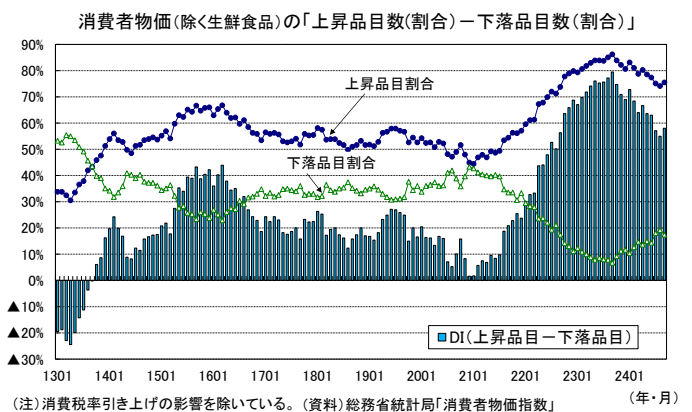
サービスは前年比 1.3%（8 月：同 1.4%）となり、上昇率は前月から 0.1 ポイント縮小した。外食の伸びは高まったが、宿泊料（8 月：前年比 9.5% → 9 月：同 6.8%）、タクシー代（8 月：前年比 4.2% → 9 月：同 3.8%）などの伸びが鈍化した。

コア CPI 上昇率を寄与度分解すると、エネルギーが 0.46%（8 月：0.94%）、食料（除く生鮮食品・外食）が 0.63%（8 月：0.60%）、その他財が 0.63%（8 月：0.57%）、サービスが 0.68%（8 月：0.68%）であった。



2. 物価上昇品目数が 5 ヶ月ぶりに増加

消費者物価指数の調査対象 522 品目（生鮮食品を除く）を前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、9 月の上昇品目数は 394 品目（8 月は 387 品目）、下落品目数は 91 品目（8 月は 100 品目）となり、上昇品目数が 5 ヶ月ぶりに前月から増加した。上昇品目数の割合は 75.5%（8 月は 74.1%）、下落品目数の割合は 17.4%（8 月は 19.2%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は 58.0%（8 月は 55.0%）であった。



3. コア CPI 上昇率は 10 月に 2%程度に鈍化した後、再び加速へ

9 月は「酷暑乗り切り緊急支援」によって、電気・都市ガス代が大きく押し下げられたが、10 月には前年比ベースの押し下げ幅がさらに拡大する。10 月のコア CPI 上昇率は 2%程度まで鈍化するが、11 月には「酷暑乗り切り緊急支援」の値引き単価が縮小され、12 月には支援策が終了することから、電気・都市ガス代の上昇率は大きく高まる。

コア CPI は 11 月に 2%台前半、12 月に 2%台後半まで伸びを高めた後、24 年度内は 2%台後半から後半で推移することが予想される。

